

EDELWEISS

皆さんは「早春賦」という日本の唱歌をご存知でしょうか？

春は名のみ 風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど
時にあらずと 声も立てず

氷解け去り 葦は角ぐむ
さては時ぞと 思うあやにく
今日も昨日も 雪の空

春と聞かねば 知らでありしを
聞けば急かる 胸の思いを
いかにせよとの この頃か

という歌詞の、迎春と年明けをお祝った後の、まさに冬から春への移り変わりの季節を詠ったものです。ヨーロッパの冬が日本のものよりさらに長く感じられるのは、実はこの春とも冬ともどっちともいえない時期の長さのせいではないでしょうか。春の兆しは確実にあり、日本では梅、こちらではスノードロップが寒さの中でも咲き始め、木の芽は膨らみ、陽も日に日に長くなってきています。ところが、まだ確実に春だ！という気持ちにはなれず、暖かくなったかと思えばやはり寒く、空はやはり灰色の日が多く、コートやブーツをしまうのはまだ先です。

思えば、スイスに住む日本人には、冬にはたくさんイベントがあります。アドヴェントの時期からクリスマス、年越し年明け、ファスナハト、節分、お子様がいるご家庭はスポーツ休暇。そうやって長い冬の間にある行事を飛び石のようにして過ごし、桃の節句とイースターまで漕ぎつければ、やっと冬も終わりとなるでしょう。

「早春賦」の最後にある「いかにせよとのこの頃か」という節には、どこか力強さを感じられます。「さあこの一年をどうしようか」と歩み始めた時、最も力強くあるべきなのかもしれません。(MA)



Die Frühjahrsblüher sind da!

「世界のオザワ」と評された指揮者逝く

今月号では、2月に亡くなった日本を代表する指揮者、小澤征爾の追悼記事を掲載しております。スイスにもゆかりのある方で、海外で奮闘する日本人として、彼は私たちの大先輩でした。記事からは、世界的な活躍をし地位を確立しながらも、とても自然体だった彼の人柄が偲べれます。ぜひご一読ください。(P5にて)



- ➡ 巻頭文「日本にのぼる道の光をもって、世界の暗を照らさん！
内村 鑑三より」青砥 玄 (会長)
- ➡ 私のイチオシ、シェアします! Vol.41
「モーツァルトとカラヤンとサウンド・オブ・ミュージックの街
～ザルツブルク」中 東生
- ➡ 古典籍スクール 其の14「江戸の歌舞伎熱」ブランド 啓子
- ➡ 小澤 征爾・追悼記事～小澤氏との思い出を回顧 中 東生
- ➡ 生物学者ママの食の歳事記「モチモチの秘密」清水(稻継) 理恵
- ➡ Kette(会員の輪) Vol.175 石村 ももこさん (Frauenfeld 在住)

巻頭文 「日本にのぼる道の光をもって、世界の暗(やみ)を照らさん！」内村鑑三より 青砥 玄(会長)

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が愛した松江で育ち、古事記にある多くの日本神話を聞きながら育った私が、東京の大学で「キリスト教概論」を学び、これが西洋文明の源流なのかと新鮮な気持ちで、聖書に触れました。そんな頃「武士道的キリスト教」を唱えたという内村鑑三や、新渡戸稲造の存在を知り、なぜか大いに興味がわいたのを今でも記憶しています。

内村鑑三は、キリスト教思想家として知られています。1895(明治28)年に彼は英文で綴った自伝「余は如何にして基督教徒となりしや」や、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の五人を取り上げた『代表的日本人』を日清戦争の最中に英文で執筆しています。同時期に英文で出された新渡戸稲造の『武士道』、岡倉天心の『茶の本』とともに、日本人の精神性を世界にむけて発信した名著として知られています。当時、日清戦争に勝利したアジアの小国日本に対する世界の関心が高まっている中でしたので、世界中で多くの人々に読まれました。

最近、国際派日本人養成講座というネット番組で伊勢雅臣氏が内村鑑三の講演録「後世への最大遺物」(「遺物」は現代語では「遺産」)を紹介していました。そこで早速原文を取り寄せて読んでみると、極めて興味深い内容です。その講演録並びに、内村の書籍を中心に彼が目指した理想の世界を、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

上記講演録で内村は「人間が後世に遺すことのできる、それも誰もが遺せる遺産は“勇ましい高尚なる生涯”である」と述べています。この言葉は、「少年よ大志を抱け！」と語り札幌農学校(現北海道大学)の副学長を辞したクラーク教授に感化され、クリスチャンとなった熱血漢・内村青年のスピリットを感じる力強い言葉です。

この内村の説いた「誰にでも遺すことのできる遺産」は、「一隅を照らす、これ則ち、国宝なり」という伝教大師、最澄の言葉と、深いところで繋がっており、我が国の国柄、日本人の生き方を指し示した言葉ではないかと伊勢氏は指摘しています。

実は、内村がこの講演を為したのは彼が34歳の時。教師の職を突然失い「筆をとるよりほかに生存の道がなくなった」という厳しい状況の中、彼は『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』など、8冊の書物を書き上げています。

日本の天職とは

若き内村が目指した「勇ましい高尚なる生涯」の晩年、彼が63歳の明治13年に『日本国の天職』という小論を発表しています。「天職」とは、神から与えられた「使命」という意味です。当時、日本は国際連盟の常任理事国として世界の大国に仲間入りし、西洋文明を後追いつける段階を卒業して、自らの進むべき道を模索しているような時期でした。

この小論の中で内村は、「日本人は英国人のような商人にあらず、また米国人のような、肉と物とにあこがれる民にあらざることに見覚つつある。日本人は英米人とは全く質の異なる民である。そこに彼らの天職があり、偉大なる所があると信ずる。」と記されています。明治時代、若き内村や新渡戸などは西洋の哲学や文学を読み漁りながら、日本

がどのようにして世界に貢献できるのかを真剣に考えていました。

そして内村は、仏教界では恵心僧都源信、法然、日蓮、道元、神道界では本居宣長、平田篤胤らを「国の誇り、民族のほまれ」と称賛しています。そしてこれらの「日本にのぼる道の光をもって、世界の暗を照らさんと欲する」と主張しています。

「日本人ではあるまいか。仏教がインドにおいて亡びし後に、日本においてこれを保存し、儒教がシナにおいて衰えし後に、日本においてこれを闡明(せんめい：明らかにし)せし日本人が、今回はまた欧米諸国において捨てられしキリスト教を、日本において保存し、闡明し、復興して、再びこれをその新しきかたちにおいて世界に伝播するのではあるまいか。」このような視点を上記小論に記し、日本の使命を考えていたのです。

当時日本は、関東大震災で帝都東京が灰燼に帰し、かつ米国では日本移民の排斥が起こっていました。そんな中、内村は「日本国の真の隆起は彼が悲境の極みに達した後にある」と述べながら、日本人の天の使命を遂げる時期については、こう明記しています。

「亡国とまでは至らざるも、その第一等国たるの地位を弛(なげう)ちての後の事であると思う。神が今、日本国をむち打ちたまいつつあるは、この準備のためではあるまいか。」このように、彼自身も苦難のどん底にありながら、日本の未来には希望を見ていたのです。何と強靱な精神力でしょう。

世界の暗を照らす“道の光”

内村鑑三は昭和5(1930)年、70歳にして世を去りました。その後の大東亜戦争と敗戦、戦後復興と高度経済成長、そして「失われた30年」のデフシ。これらの出来事こそ内村の言う「悲境の極みに達し」「第一等国たるの地位を弛(なげう)ち」に匹敵するのではないかと、伊勢氏は指摘します。

現在の欧米キリスト教国は移民問題などで混乱し、かつてのキリスト教精神などは大いに薄れてきています。一方、いくつかの覇権主義国が精神的・道徳的価値などを無視して周囲を威圧しています。まさに「世界の暗」はますます広がつつある状況とも見ることができず。しかし、こういう世界情勢の中、日本は「道の光」となって、闇の世界を明るく照らすことなどできるのでしょうか？

ここでヒントとなるのが、教育勅語は「拝むものではなく、「実行する」ものと主張して問題になった過去を持つ内村の思想・考え方です。この考え方に做えば、キリスト教も、仏教も、組織を作ったり、神学理論を振り回すものではなく、それらの教えの中核にある「生き方」を実行することこそ大切であるべきでしょう。

「中国人も日本人も、自分たちに与えられた孔子の戒めを守りさえすれば、欧米のどんなキリスト教国よりも立派なキリスト教国になれるのだ」と内村は言います。「勇ましい高尚なる生涯」は宗派の違いを超えて、人類が目指すべき共通の理想である、という人生観なのです。

よく「日本人は無宗教だ」と言われます。それは宗教を戒律や教義、儀式、教会組織という外飾的なものとして捉えているからではないでしょうか。内村が考えていたよ

うに、外的飾りを取り払って、仏陀や孔子やキリストやマホメットが理想とした生き方を「実行する」事こそが、真の宗教であるとするれば、今日、日本人ほど宗教的な国民はそれほど多くないのではと考えることが出来ると思います。

例えば、東日本大震災の際にも被災者たちが助け合う姿に世界は、大いに感動しました。また来日した外国人が日本人の親切さに驚き、さらには、サッカーなどの国際試合の後で、ゴミを片付けて帰る姿が称賛されています。そんなささいな事でも、日本人には普通の行動が、世界の人々の感動を呼んでいるのです。大谷翔平の活躍もそうです。これこそ、「日本にのぼる道の光をもって、世界の暗を照らさん」とする事ではないか、と考えることもできます。

外飾を純化し物事の本質を捉える日本人

歴史を振り返ってみれば、仏教が日本に伝わった6世紀中頃、仏教はすでに大仰な外飾に包まれていました。万巻の仏教書を学び、壮麗な寺院を建て、巨大な仏像を拝み、厳しい修行を行って、ようやく仏の道に進める、という外飾がとても発達していたと上述の伊勢氏は指摘します。

それが鎌倉時代までかかって、そうした外飾がごとごとく外され、「誰でも念仏を唱えさえすれば仏になれる」「人は本来みな仏である」というところまで純化され、日本化されていったのです。

「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」と述べた最澄は、仏教の総合大学とも言うべき延暦寺を建て、ここから純化に挑戦する法然、親鸞、栄西、道元、日蓮、一遍などの名僧が育っていきました。

内村が言うように、この純化を目指す力は、直観的に物事の本質を捉える日本人の感性なのでしょう。それは、教義も経典も組織もなく、ただ生きとし生けるものを神の命として尊んだ神道の土壌に育ったものだからでしょう。その感性から、我が祖先たちは海外から渡来する宗教や思想の外飾を取り払い、その本質のみを取り入れてきた様に思います。伊勢氏は指摘します。各宗教の本質が制度や組織、理論といった外飾ではなく、人間の生き方にあるとするれば、一人ひとりの人間が互いに愛と思いやりの心をもって暮らしていく、といった姿が理想の姿となります。そうした「一隅を照らす」生き方こそ、内村鑑三のいう「勇ましい高尚な生き方」ということになるのです。現在の我が国は、デフレ下で貧しくなったとはいえ、まだ思いやりに満ちた国であるというのも、こうした長年の努力の蓄積の結果ではないでしょうか。

多少腐れてはいますが、こういう生き方を多くの人が自然に行うことの出来る社会が現実存在するというを国際社会に示すこと、それが内村鑑三の祈った「日本にのぼる道の光をもって、世界の暗を照らさん」ということではないかと私自身も思うようになりました。内村も新渡戸も西洋文明がどんどん流入する中にあっても、武士としての気概、日本人としての誇りを失わずに、日本の希望的未来の形を模索し続けた、稀有な人物でありました。現代の私達こそが学ぶべき姿勢なのではと強く感じる次第です。

◆ご意見・ご質問は青砥まで。Gen.Aoto@toyota.ch



私のイチオシ、シェアします!

天才達を生む街～ザルツブルク 中 東 生

このところほぼ毎年、数回ザルツブルクに行っていますが、そんなに深く知っているわけではありません。でも、「ザルツブルクのお勧めを教えてください」というリクエストを頂いたので、私の好きなザルツブルク散策を書いてみます!

ザルツブルクはその名前の通り、塩の採掘地として、交易によって発展してきました。その豊さから、中世には宗教都市として栄えていきます。ですから神を讃える教会の合唱指揮者の娘と大司教付き一流音楽家のレオポルト・モーツァルトの間に、1756年1月27日、天才児ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが生まれたのも、ザルツブルクのお蔭と言えるかも…。

1996年に世界遺産として登録された旧市街の中心、ゲトライデガッセ9番地にはモーツァルトの生家も見られますが、私はやっぱり成人してから住んでいたWohnhausが好き!美術館としても、モーツァルト作品の図書館としても、コンサート会場としても、彼の息吹を感じられます。

モーツァルト没後50周年の1841年に、未亡人コンスタンツェや息子フランツ＝クサヴィエ・モーツァルト(作曲家)も支援してモーツァルテウムが創設されました。モーツァルテウム大学には世界中から留学生が学びに来ています。

そして、コロナ直前にJCZの新年会にも演奏会のチケットを提供してくれた「モーツァルト週間」という音楽祭を、モーツァ

ルトの誕生日前後に開催していますので、是非一度、聴きに行ってみて下さい。最近改装されたモーツァルテウム財団ホールやモーツァルト・ハウス、各劇場をはじめ、教会や街角までがモーツァルトの誕生日を祝っているようです。

それから1908年4月5日に、史上最も有名な指揮者のヘルベルト・フォン・カラヤンがこの地に生を受けました。彼が私財をはたいて創設したザルツブルク復活祭音楽祭も、見逃せないフェスティバルです。続いてザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭もあり、チューリッヒ近郊に住むメゾソプラノ歌手バルトリが総裁を務めています。そして夏には1ヶ月半に亘る音楽祭で賑わうのです。コロナ禍に100周年記念を迎えたこともあり、唯一中止にならなかった音楽祭ということでも、その重要さが分かると思えます。

チケットが高過ぎたり、取れなかったりしても、重要演目の開場時に祝祭劇場や岩窟乗馬学校前に行くと、社交界の雰囲気を感じられます。

その岩窟乗馬学校と聞くと、何か思い出しませんか?そう!映画『サウンド・オブ・ミュージック』で主人公のトラップ大佐が、ナチスからの亡命を控えた歌唱コンテストで「エーデルワイス」を歌い、感極まって声を詰まらせるシーンの舞台です。他には「ドレミの歌」の場面となったミラベル宮殿も初夏にはバラが咲き乱れ、オフシーズンでも綺麗に手入れされていて必見です。さらにトラップ邸は今ではホテルになっているため、中に入れば、『サウンド・オブ・ミュージック』の時代にトリップできます。『サウンド・オブ・ミュージック』ツアーというものがあり、日本人の



純子さんというガイドさんも歌いながら説明してくれます。



お散歩のお勧めは城塞の周りを1~2時間、矢印に従って歩くコースです。沢山歩きたくない私のような方には、Monchsbergのエレベーターに乗って上まで行く事をお勧めします。エレベーター乗車券には美術館入場料も含まれているので、まずは上上がり、テラスのレストランを予約して、ホーエンザルツブルク城まで歩きます。その辺りをぶらぶらして、お腹が空いたらレストランに戻り、ザルツブルクの街やザルツァハ川を見下ろしながら舌鼓を打ちます。帰りには展覧会を見てエレベーターで降りるか、岩窟乗馬学校の傍に出る細い階段を降りて旧市街に戻ります。

ザルツァハ川と言えば、遊覧船もお勧めですが、まだ乗った事がないので、今度乗ったら第二弾を書きますね!遠出したい方には、ヘルブルン宮殿の様々な噴水やロープウェイでの山登りもお勧めですが、頂上には夏でも雪が残っているので、雪仕様の靴必携です!

夕飯は、「ザルツブルク風」ならGolden Hirsch、「グルメ派」ならDie Geheim Specerey、「音楽好き」ならTriangleです。次の日のランチはビール工場で作出来たのビールととびきり美味しいウィーン風カツレツが食べられるStiegl Brauweltか、コッテリだけどたこ焼きなどのおつまみが充実しているラーメン屋「一期一会」で心残りなく食べて下さい!きっと、また戻って来たくなくなるはずですよ。

大使館関係のお知らせ

※今年「日・スイス国交樹立160周年記念」イヤーです。

様々な催し物はこちらからチェックして下さい。



※今月の領事出張サービスはチューリッヒ州以外になります。

- バーゼル: 2024年3月6日(水)13:00-15:00
- ザンクトガレン: 2024年3月13日(水)11:00-12:00
- リヒテンシュタイン: 2024年3月13日(水)14:00-15:00
- クール: 2024年3月13日(水)16:00-17:00
- ルツェルン: 2024年3月14日(木)10:00-11:00
- ツーク: 2024年3月14日(木)13:00-14:00

詳細は大使館HPにてご確認ください。

GlobAS Relocations Europe GmbH

スイスからのお引越はグローバシリケーション ミュンヘン支店にお任せを!創業20年以上、8名の経験豊富な日本人スタッフによるお引越サービス。ビデオ下見からの見積り作成(無料)が可能となりますのでまずはお気軽にご連絡ください!



HP: <http://www.globas-relo.com>

Email: zurich@globas-relo.com

Tel: +49 (0) 89-189-386-21 (日本語直通) 担当: 三嶋

1. 四世鶴屋南北 (1755-1829)

前回は覚えやすい七五調の流麗な台詞を散りばめて、360余もの作品を残した歌舞伎作者 河竹黙阿弥 (1816-1893) を紹介しました。今回は黙阿弥の一時代前に意表をついた舞台演出で歌舞伎ファンを湧かせた、鶴屋南北をみてみましょう。南北は、宝暦5年に紺屋の型付職人の次男として日本橋新乗物町に生まれ、最初は役者でしたが途中で狂言作者に転向。しかし最初のヒット作「天竺徳兵衛韓噺」(てんじくとくべいこくばなし)が出るまでには、なんと三十年もの下積み時代を過ごしました。彼は作劇においての2大要素「世界=決められた筋と役柄」と「趣向=新アイデア」をより複雑に絡み合わせて奇想天外な筋を編み出し、観客を「あっ」と驚かせました。筋書きのみならず、舞台装置もカラクリをふんだんに利用し斬新な舞台を創り上げたのです。



4代目鶴屋南北 (個人蔵)

2. ケレン(外連)

南北は生世話物(きぜわもの・当時の現代劇)というジャンルを開き、江戸も後期の文化文政時代(1804-1829)の円熟した町人文化の中、庶民を主人公にして次々と新アイデアのひねりを入れました。提灯抜け(ちょうちんぬけ)戸板返し、仏壇返し、宙乗り、屋台崩しなどの舞台装置の仕掛けは、南北の最高傑作といわれる「東海道四谷怪談」でも使われ、お化けの恐ろしさを何万倍にも増幅して、観客を震え上がらせました。この様な仕掛けは大衆芸能だった歌舞伎では古くから使われてきたのですが(当時は電気、照明やマイク、電動モーターなどはありませんでした)明治期に西洋文化が取り入れられると、歌舞伎の高尚化を図るため曲芸的であるという理由で遠ざけられました。現在では、歌舞伎は本来のかぶく=並外れた物、との認識に戻りケレンの演出もまた復活しています。

さて、裏切られ殺された人間が幽霊となって復讐を果たす構図は南北の編み出した物ですが、歌舞伎演目で最も人気の高い敵討物に加えることができます。仇を討って目的を果たすまでの艱難辛苦(かんなんしんく)が延々と描かれるのが特徴です。

3. 東海道四谷怪談 (1825)——色悪(いろあく)

この作品は南北71歳の時、3代目尾上菊五郎(42歳)の為に書き下ろしました。江戸四谷左門町のお岩巷説に忠臣蔵の世界を重ね合わせましたので、筋はたいそう複雑になっています。江戸城の警備職田宮又左衛門の娘お岩は、婿の伊右衛門に裏切られ騙されたと知って狂乱。この伊右衛門はいわゆる「色悪」で、御用金横領、義父の殺人、不貞、薬と偽ってお岩に毒を盛り、散々いたぶるなどのあらゆる悪を重ね涼しい顔をしています。お岩は毒のために恐ろしい顔になり、ついには伊右衛門に殺されます。お岩は怨霊となり伊右衛門にとりついて苦しめます。お芝居では以下の様な演出がなされます。

提灯抜け=燃えた提灯からお岩が登場。

戸板返し=流れて来た戸板の裏面に、殺されたお岩と小仏小平の死骸が。

仏壇返し=お岩をいじめた秋山長兵衛が仏壇から出て来たお岩の幽霊に首筋を捕まれ、仏壇に引き込まれます。

さらに、大きな鼠が赤ん坊を啜えて行ってしまう。抱いている赤ん坊が石地藏に変わる。などなど…。結局伊右衛門も狂い、死へと追いやられるのでした。

それにしてもこの極悪非道の伊右衛門は、想像を絶する悪を内に秘め、しかし外見は美しい二枚目という、ぎらぎらした魅力溢れた役柄です。当時演じたのは7代目團十郎、あの謎の自殺を遂げた8代目團十郎の父。悪役が見事に描かれている芝居ほど、人を惹きつけて止まないのは何故でしょうか？

次回も怪談のお話をいたしましょう。お楽しみに。



【左から】
民谷伊右衛門(市川海老蔵)、
民谷女房お岩(中村勘太郎)
平成22年8月新橋演舞場

BULLETIN BOARD

第9回翻訳コンクール

日本の文学作品の優れた翻訳家を発掘・育成することを目的に文化庁が主催

(1) 応募期間(日本時間)

令和6年6月1日(土)~6月30日(日)

(2) 入賞者発表

令和7年1月(最優秀賞百万円)

・言語: 英語/ドイツ語

・課題作品

小説 井戸川射子 著「マイホーム」

評論・エッセイ 岸本佐知子 著「カブキ」
「七月の私」「父 セリフ三選」

詳細は jlpp_office@jlpp.go.jp 参照

【クロッペンシュタイン】

チューリッヒ歌劇場所属、

3人のテノールによるコンサート

ナポリ民謡「オーソレミオ」「フニクリフニクラ」、オペラアリア「女心の歌」他

出演: 竹下数雄、Christofer Hux、Karl Hieger、Rafael Gordillo(ピアノ)

日時: 3月3日(日) 13時~14時半

会場: Zunfthaus zur Waag,
Münsterhof 8, 8001 ZH

入場無料、Kollekte 【竹下】

日本人の弦楽五重奏コンサート

新年会で華麗な演奏を聴かせて下さった御二方に他の会員や遠方の音楽家も加わった室内楽演奏会です

日時: 3月2日(土) 17時

会場: Reformierte Kirche Opfikon

坪井悠佳(バイオリン) 神谷タンナー未夏(ピオラ) 横田誠治(チェロ) 藤森志保(コントラバス) 大橋雅子(ピアノ)

ロッシーニ 弦楽のためのソナタ第1番
リスト 伝説(ピアノソロ)

シューベルト「鱈」

入場無料 終演後アペロ 【新年会実行委員】

今月のスイスドイツ語講座



リクエストにお答えして、このコーナー復活です！

今月は、お子さんのお友達の誘い方。
ワクワク感を込めて

「冒険に行こう！」

Gömm'er uf es Abentüür!

ゲンメル ウフ エス アーベントゥール

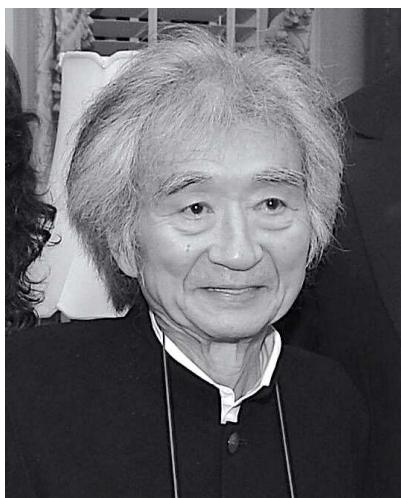
(↑ウムラウト)

大人でも、これからの季節、使えるかも知れません。
ワクワク感おこしましょう！



小澤征爾

小澤氏との思い出を回顧
—— 日本とスイスの架



1935年9月1日 - 2024年2月6日 享年88歳

中 東 生

2月6日長い闘病生活の末、「世界のOZAWA」が心不全で旅立った。癌と戦いながら88歳まで頑張れたのは、音楽への情熱が尽きなかったからかもしれない。15年前、スイスのロールでインタビューした時の姿を思い浮かべた...

2009年6月25日スイス国際アカデミー (IMA。現在は小澤の名を冠している)に小澤氏を訪ねた。彼は6月13日にパリでヘルニアの緊急手術を受けた直後だったが、一週間の療養後、「指揮は1時間」という制限付きでロールにやって来たのだ。それなのに、ふわっと、あまりにも自然な「世界のマエストロ」は人との間に隔たりを作らない。そして独特の小澤節で質問に、真剣に答えてくれたあの濃い1時間半が忘れられない。

「弦楽四重奏がクラシック音楽アンサンブルの基本、というのが斎藤秀雄先生の信念で〜 (中略)〜奥志雅で始めたの。〜 (中略)〜僕がウィーン

国立歌劇場と契約した時に『ヨーロッパでもやらないか』って言われたの。でも、なんとなくどこかで始めていか解らなくてね。そこに、ブランシェとオリヴィエ (現IMAプレジデント兼アーティストック・ディレクター) が『スイスでやらないか』って僕のところに来たの。『ああ、スイスっていうのは中立でいいなあ』と思って。ウィーンとかベルリンとか、大きな街でやると、その音楽学校なんかと密接になっちゃうでしょ」

そんな経緯で2005年にスイスで生まれたIMAは小澤国際室内楽アカデミー奥志賀や小澤征爾音楽塾、セイジ・オザワ松本フェスティバル等と繋がり、世界からスイスへ、そして日本への架け橋となったのだった。

小澤征爾という名が音楽界に興味のない人々にも周知されたのは、1962年12月にNHK交響楽団が小澤征爾の指揮するはずだった定期演奏会をボイコットした事件だろう。その「禁忌」とも思われていたテーマにもインタビュー時に自然に触れられたのは奇跡だった。

「(前略) 東京新聞の学芸部に横溝正史の息子がいて、成城学園の先輩なんだけどね、『N響の黒い霧』というロマンチックな名前で、3面の最初にバーって真っ先に書いてくれて、それで僕、有名になったんだよ。〜 (中略)〜当時は本当に大変だったけれど、やっぱりね、相当生意気だったと思うんですよ。『この馬鹿野郎! もう日本なんか絶対帰らない。もう日本では仕事しない』なんてニューヨークのマネージャーに言ったの。それなのに翌年帰って来たんだけどさ (笑)。偉そうなこと言っていたけれど、心のどこかでは『しまった、生意気だった...』

と書いてたんだね。『アメリカナイズ』という言葉は当時、特に芸術の世界ではネガティブな意味合いで使われていたんだけど、よく言われていたから、『なるほど、そうなのかな』って少しは解って、『N響事件』が加えて大チャンスになったね。」

「赤裸々」という言い回しを体現したような正直な感情描写がボンボン出て来るのに、そこにジメツとしたマイナス感覚はない。少年のような自然な、それでいて熱い小澤氏は、インタビュー後レッスンになると目を輝かせて、音楽へ没頭していく。そのエネルギーは何時間も枯れることがなかった。

このインタビューの1年後、食道がんを活動休止したが、その後も復帰して指揮や後進の指導を続け、2022年長野県の「ONE EARTH MISSION Unite with Music 小澤征爾 / SKO & JAXA 共同企画」が最後の指揮となった。2023年セイジ・オザワ松本フェスティバル9月2日の公演でアンコール中に舞台上に呼び込まれたのが、公の場に姿を見せた最後だったという。車椅子姿の小澤氏は頭に差したサングラスやブランケット等を赤で統一してお茶目な格好だが、首に巻かれた赤い布は氣道に穴を開けられた部分を隠しているように見える痛々しい姿で、それでも生きてくれる姿が見られただけで皆をカブけただろう。

小澤征爾は音楽家としてだけでなく、日本人にとって、そして人間にとって学ぶところが沢山ある魅力的な人であった。彼亡き今、日本は、そして外国で頑張る私達は特に、彼の生き様・功績を辿ってみることが重要だと思われる。どこか一つでも、彼から学べる事が見つかるだろう。



清水(稲継)理恵
食の歳時記

生物学者ママの

モチモチの秘密

正月といえば餅つき。とはいえ、都市部ではその光景を目にする機会は今ではほとんどないだろう。私が小さいころには母親の実家でも毎年餅つきをしていた。かまどで蒸し上げた大量のもち米を、まだ若かった叔父たち(母の弟たち)が順番につき上げ、女性たちは餅を丸めて木製のばんじゅう(トレイ状の容器)に並べていく。その古民家はとくに無くなってしまったが、かまどで薪がはぜる匂い、大量に並んだお餅、少し日が経った餅を火鉢の炭火で焼く祖父、香ばしい焦げ目の付いた餅など、お正月の浮き立つような楽しい雰囲気はよく覚えている。しかしそれはいつまでも続かず、いつしか杵と臼は電動の餅つき機に取って代われ、さらに後にはそもそも家で餅をつく習慣そのものが無くなってしまった。おそらく、どこのお宅でも似たりよったりな状況だったのではないだろうか。

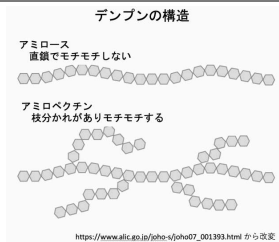
チューリッヒではJCZが毎年お餅つき会を催してくれており、実際に杵と臼で餅をついたり、つきたてのお餅を色々な味付けでいただくことができる。もしかしたら、スイスに来て初めて餅つきを見たという人さえいるかも知れない。東京などに住んでいるよりも当地でのほうが餅つきを見る機会が多いというのは、逆説的で面白い話である。ここ数年は、自分でもち米を購入し、炊飯器で炊いてホームベーカリーでこねるという手抜き餅を作るようになった。手抜きバージョンとはいえ、出来立てというだけで数割増しに美味しいので、ホームベーカリーがあればぜひ試していただきたい。

さてこのもち米、普段のご飯の主演であるうるち米とは何が異なるかというと、デンプンの化学構造が異なる。デンプンは何百個ものグルコースが繋がったものだが、もち米のデンプンは、枝分かれが非常に多い構造(アミロペクチン)をしている。水を含んだ際にこの枝がお互いに複雑に絡み合うことでモチモチ

の食感が生み出される。うるち米には、アミロペクチンの他に、枝分かれがない直線状の構造(アミロース)が20%程度含まれる。直線状だと絡み合う度合いが減るため、モチモチ感は弱くなる。

実はもち米以外にも、アミロペクチンをより多く含むモチ性の穀物は多くある。モチ麦、モチ粟など聞いたことがあるかもしれないが、実はほとんど全ての穀物でモチ性の品種が存在する。しかしどの穀物でも、栽培化される前の野生の植物にはモチ性のものは存在しない。つまり、モチ性は人間が好むために発展した性質ということだ。その性質を生み出したのはアミロースを合成する遺伝子に起きた変異であり、直線状のアミロースを作れなくなったのが原因である。この遺伝子変異は、それぞれの穀物で別々に出現したものであることがわかっている。人間が穀物を栽培している間に、食感が異なるもの(モチ性を持つもの)が現れた。それが好んで栽培されるようになり品種として確立した、という栽培の歴史が推察される。

米のモチ性の原因となる遺伝子変異はおそらく東アジアの起源という研究がある。我々日本人はモチ性が好きである。お餅はもちろんのこと、モチとつく穀物名をみると、無条件に美味しそう!と思ってしまうのだろうか。しかしこのモチモチ食感への嗜好は世界共通ではないらしい。日本をはじめとした東アジアではもちとした食感が好まれ、インドシナ半島中央部などではもち米しか食べない地域もあるらしい。一方、インドなど西アジアの米はさらっとした食感で、モチ性は好まれない。この地方で栽培されるインディカ米のアミロースの濃度は、日本で栽培されるジャポニカ米よりも若干高く、それが食感の違いを生み出す要因の一つとなっている。同じお米とともに生きてきた民族でも、気候、一緒に食べる食品など、他の様々な要因のために異なる嗜好を持つようになったのだろう。単なる'お米の国'ならぬ、'お餅の国'に生まれて幸運だったと思いつつ餅を思う存分頬張った、今年の1月であった。



餅つき、餅米、中々日本でも実感する機会が少ないのだなあ、と思っていたら、そんな状況を打破する活動を行っている知り合いがいました!



住所地球 えん

田植えツアーなるものも存在するそうなのですが、このように地域コミュニティの活性化を計り、日本の食の伝統も学べるのっていいですね。田植え、稲刈り、餅つき、しめ飾り作り、そして次は味噌作り挑戦するそうです。それも手作り麹で・・・!

スイスではティチーノ州のお米が有名なようですね。隣国イタリアはリゾット米などの伝統から日本米も生産していましたが、近年の水不足で、めっきり手に入りにくくなりました。チューリッヒ州の気候では田植えは無理かも知れませんが、お味噌は作れるようです。友人から超美味な自家製味噌を戴いた事もありました。そろそろ意を決して、私も作ってみようかなあ～。

皆様も手作り味噌などのお勧め情報をお知らせ下さい!

チューリッヒ日本人会、チューリッヒ日本商工会共催
ゼクセロイテン祭り「キンダーパレード」参加の御案内

春を呼ぶチューリッヒ最大の祭り、「ゼクセロイテン・キンダーパレード」が開催されます。例年、日本人学校の児童生徒とチューリッヒ在住の日本人子女にも多数参加していただき盛大に行っております。

つきましては、このパレードに参加希望のお子様は、下記の申込必要事項を御記入の上、電子メールにてお申込みをよろしく申し上げます。

- 開催日時 2024年 4月 14日(日)
集合 14:00
パレード開始 14:30
解散予定 16:30~17:00
- 参加年齢: 小学1年生以上(ゼクセロイテン当日時点で)
※保護者が同伴すること。
- 申込先: チューリッヒ日本人学校ゼクセロイテン・キンダーパレード担当(堀)
Email: jszurich@bluewin.ch
申込後、詳細をEメールにてお知らせします

【申込み記入事項】

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| ①参加児童生徒名【ローマ字つづり】 | ②性別 |
| ③年齢(ゼクセロイテン当日時点) | ④法被レンタル希(有・無) |
| ⑤保護者名【ローマ字つづり】 | ⑥住所 |
| ⑦携帯電話番号(当日の緊急連絡用) | ⑧メールアドレス |
| ⑨チューリッヒ日本人学校のホームページでの写真や動画の掲載(可、不可) | |

- 締め切り: 3月11日(月)

JCZ事務局からのお知らせ

3月イベント

ポジャギ講習会 モビール作りのお知らせ

ポジャギとはもとは韓国の伝統的な風呂敷のことで、中でも独特のパッチワークで作られるものが有名です。今回はそのパッチワークの技法を用いて、好きな色で、イースターや春のデコレーションにかわいらしいモビールを作ります。初心者の方も大歓迎です。講師は、ポジャギアーティストの、Lee Klein, Seikaさんです。

日時：3月12日(火) 14:00~17:00

場所：GZ Riesbach

参加される方には、詳しい行き方をお知らせします。

定員：10名

参加費：15フラン(材料費実費)

申込：*3月6日(水)までに、JCZ HPイベント申込フォームより、またはメールでkikaku@japanswiss.chまでお申し込みください。



2月イベント

Let's スケート @ドルダー(屋外スケートリンク)

午前中は雨模様だった2月9日、幸いにもイベントの時間には雨も上がり、娘と共に楽しく参加させていたことが出来ました。このような企画に参加するのは初めてで、他の参加者の方達のことでも知らず、多少の不安もありましたが、とても楽しませていただきました。明るく優しいルナ先生のおかげで、人見知りをするところがある娘もすぐに馴染み、別の参加者のお子さんとも一緒に氷の上でたくさん笑顔を見ることができました。私自身もとても満喫させていただきました。娘は翌日には「またスケートに今日も行ける？先生に会える？」と言うくらい大満足な経験となりました。また同じような企画があれば参加したいです。楽しい企画をありがとうございました。(M.Y)



3月のアフタヌーンカフェ

お店のショーウィンドウも、ご近所さんの窓辺も、イースターの明るい色が目を引く季節となりました。Jelmoliのカフェでおしゃべりの時間を設けています。どなたでもどうぞ。

日時：3月14日(木)

14:00 ~ 16:00

場所：Jelmoli 3F レストラン

申込：JCZホームページのイベント申込フォームより、またはメールにてお申し込みください。kikaku@japanswiss.ch

EVENTS & FESTIVALS

チューリッヒ近郊お出かけ情報

サイエンス・シティ・キッズ ETH

Science City Kids

・3月10日(日)11:00~16:00「きのこは象30頭より重い？」7歳以上

・「北極にオウムはいる？」5~6歳

11:00, 12:00, 14:00, 15:00

・その他「石膏のFossilien」、

「Bloss凍えないで！」もあり

申込：3月4日まで

・3月24日(日)11:00~16:00

「氷の中への旅」7歳以上 11:00, 13:00

・「動物たちに近づいてみよう」

5-6歳 11:00, 12:00, 14:00, 15:00

・その他「泥以上に」、「世界一大きなスポンジ」もあり

申込：3月18日までにサイトに

www.treffpunkt.ethz.ch

Informatiktage ETH

3月18~23日、

最終日オープンデー 9:30~16:30

ITのセキュリティからChat GPTまで

www.informatiktage.ch/eth

Wine tasting - Piemonte

3月14日(木) 18:00~20:30

参加登録 3月11日(月)までに登録フォームからお申し込みください。

www.denzweine.ch/events/wine-

tasting-piemont

チューリッヒ歌劇場 Oper Zürich

・オペレッタ《メリー・ウィドウ》

3月1・5・7・10・12・14日

上等なショーとハイレベルな歌唱。「オペレッタとは…」と伝統を重視する人の中には演出家に罵声を浴びせていた人もいたけれど、柔軟な人は楽しめるはず！

・ヴェルディのレクイエム

3月2・8・22・24・28日

パレエも合唱も好きな人には一石二鳥。レクイエムを純粋に楽しみたい人にはトゥーマッチかも…。

・現代オペラ《アメリカ》

3月3・6・9・15・24日

新演出なので未知数だけど、指揮者のガブリエル・フェルツは重鎮だし、クララ役のモイツァ・エルトマンは美しい声で現代曲に精通しているので期待できそう。

・パレエ「Horizonte」3月9・19日

・オペレッタ《シャルダッシュの女王》3

月10・13・17・23・30日

大指揮者マルチェロ・ヴィオッティの息子ロレンツォが指揮、キャストも実力派で舞台も大掛かり。

・ローザ・フェオーナ リサイタル 3月11日

・パレエ「チェリスト」

3月17、20、27日

・ランチ (24日) ランチ (25日) コン

サート メンデルスゾーン、ドホナーニ

こちらのQRコードをお読み取りいただき、当会のHP「最新ニュース」の「お出かけ情報」をご参照ください。



japanswiss.ch

第10回 ビール・フェスティバル

3月22~24日 17:00~深夜

Best Western Hotel

www.probiere.ch

High on Light and Sound

3月29日(金) 20:00 Photobastei

Sihlquai 125, 8005 Zürich

光と音の世界に旅ができるよう

www.photobastei.ch

ディズニー100周年記念 Disney on Ice

3月22日~24日 記念すべき年ならではのショーを『ディズニー・オン・アイス』で！www.disneyonice.com

夜のグロースミュンスター ガイドツアー

Meditative Nachtführung im

Grossmünster

3月22日(金) 22:00~23:00

15分前にHauptportal

Grossmünsterに集合

www.zuercher-museen.ch

チョコレート・フェスティバル

3月24日(日)10:00~17:00

カカオとスイスの結び付きなどが学べる

Mühle Tiefenbrunnen

www.schoggifestival.ch

MUSIC CLASSIC オススメ音楽情報 RECOMMENDATION

Tonhalle-Orchester Zürich

・3月6~8日 フォーレ「レクイエム」他

パーヴォ・ヤルヴィ指揮、ジュリア・セメン

ツァート(ソプラノ)他

・3月13~15日 サン=サーンス、シベリウス

他 パーヴォ・ヤルヴィ指揮、ソル・ガベッタ

(チェロ)

・3月20-21日 チャイコフスキー、R.シュ

トラウス ラファエル・パヤール指揮

・3月30日 マタイ受難曲 フランチェスコ

コルティ指揮、フライブルク・バロックオー

ケストラ フィリップ・ジャルスキー他

Lucerne Festival @KKL

ルツェルンで毎年行われる音楽祭春フェス

3月22日~

シャイア指揮バートーヴェン

3月23日 モーツァルト、ドヴォルザーク、

チャイコフスキーの室内楽

3月24日 ヘラス=カサド指揮バートーヴェン

www.lucernefestival.ch

石村 ももこさん (Frauenfeld 在住)

お仕事は？

Swiss Re という再保険会社で働いています。再保険会社というのは、簡単にいうと「保険会社の為の保険会社」で、世界中のありとあらゆるリスクを引き受けています。“保険”とは実はかなり奥の深い世界で「え！こんなものにも？！」と思うような事/物にも実は保険がかけられているのです。

現在は企業や師/士業の賠償責任保険を担当しており、主にリスク評価やポートフォリオ管理をしています。毎日が勉強の日々ですが、世界中の人々の生活、経済活動を支えていると実感できるこの仕事が大好きです。

スイスに来るまでの話

スイス人の旦那との結婚を機に2022年に引っ越してきました。その前も海外での生活が長く、大学はオーストラリアで4年間、その後日本で就職したものの伝統的な社風が合わず2年で退職、そのあと再就職した会社からドイツに駐在となり、約5年程ハノーファーに住んでいました。

今思えば、就活のネタにと思い決めた留学のおかげで、海外とのご縁が増え、スイスにまでたどり着きました。ひとつの決断が人生に大きく影響することがあるんだなと、しみじみ思います。

ご出身は？

千葉県千葉市稲毛の出身です。どこにでもある東京近郊のベッドタウンで、特に自慢できることはありませんが、マツコデラックスさんの出身地です。



スイス生活は如何ですか？

スイスは異文化に寛容な国で、移民として本当に住みやすいです。多文化社会だということがあるのだと思いますが、「これがスイスのやり方だ！」と押し付けることがなく、私が私のまま働いたり生活できることが本当に楽です。オーストラリア留学時代は、若気の至りか、現地の学生の様に振る舞うことを目標にしていたかなり無理をした記憶がありますが、今は疲れない程度に、自分のペースでうまくバランスを保ちながら暮らしている気がします。

正直日本は恋しいですが、最近では、FaceTimeやLINEで家族や友達と常に繋がってられるし、Netflixで日本のコンテンツが楽しめたり、オンラインで小説や漫画が読めるので、日本とスイス、ふたつの世界をいいとこどり！テクノロジーありがとう！というポジティブな気持ちで毎日過ごしています。

趣味、今ハマっていること

映画館で映画を観ることが好きです。特にホラー映画が好きで、最近見たホラー映画はどんなにB級でも必ず映画館で観ています。日本に帰国した際も必ず映画館で数本映画を観ます。日本の観客は映画へのリスペクトがすごく、物音ひとつせず集中して観賞できてそれはそれでいいのですが、スイスではお客さんが普通に笑い声をあげたりリアクションをするので、正直スイスの方が気楽に観れる気がします(途中の15分休みはどうしても未だに理解できませんが…)。ちょっと贅沢に、プレミアムシートでビールを飲みながら映画鑑賞するのが、お気に入りの金曜日の過ごし方です。最近では1番安いチケットを買ってオペラ鑑賞をすることもあります。

好きな食べ物/料理

アジア料理が好きで、特に中華が好きです。チューリッヒにある中華料理屋は制覇している自信があります。日本食が恋しい時は、パリやミラノ、デュッセルドルフに日本食を食べる一人旅にでています。毎回懲りずにかなりハードなスケジュールを組んでしまい、過酷な旅となっています。あと、激辛料理が好きです。チューリッヒはあまり激辛レストランを見かけないので、家ではTenzのチリソースをとりあえず何にでもかけてしまいます。

会員の方へのメッセージ

スイスに来て早2年、だいぶ生活にも慣れ仕事以外で人と関わりを持ちたいと思い、去年の夏ごろから日本人会のお手伝いをさせていただいております。まだまだ経験不足で不安なことだらけですが、スイスにいる皆さんに少しでも日本を思い出せる空間を作るお手伝いができるよう努力して参りますのでどうぞよろしくお願いたします。

編集後記

今年の2月は暖かった！逆に東京では、2月上旬に雪が降り、日本に行った娘の一行は全員風邪。帰国後早々「あ〜、スイスはあったかい！」と不思議発言(!)。今年には復活祭が早いので、「復活祭には雪が降りやすい」という言い伝え通り、また寒さが戻って来るかもしれませんが…。それでも雪山の状態は良く、スキーに最適な気候でした。皆様はどんなスポーツ休暇を過ごされましたか？スポーツ休暇って不思議ですね。「山国スイス人としてはスキーが出来なきゃ困る！」という気合いか、「寒いと体がなまってくるから、スキーでもして皆んな、身体に気をつけてね」というエールか…。でも、一番の理由は「日光浴」では？雪山ではお日様を拜めるので、ビタミンDも生成できるし、何より鬱々とした冬気分が晴れる。そう、3月の最終日曜日には夏時間に変えるのもお忘れなく！(N.S)

広告掲載のご案内

ジャパンクラブチューリッヒでは、会員の方からのお知らせ・広告掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください。

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部までメールにてお送りください。

*JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ会報誌エーデルワイス

2024年 3月号

発行責任者：青砥 玄(会長)

編集：中 東生、阿部 牧子

レイアウト：鎌田 裕子 市居 美帆

編集部専用メールアドレス

edelweiss@japanwiss.ch

JCZ Japan Club Zurich

Office of Honorary Consul

General of Japan

Utoquai 55, 8008 ZH

jcz@japanwiss.ch

www.japanwiss.ch

